

通訳案内士研修会<資料>

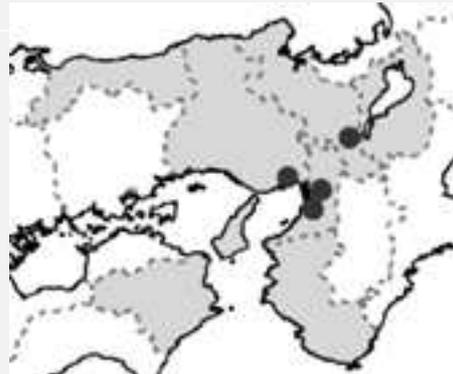
関西広域連合について

【行政説明・取組紹介】

関西広域連合
広域観光・文化振興局

関西広域連合の概要

設 立	平成22年12月1日
構成団体	滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 和歌山県 鳥取県 徳島県 大阪市 堺市 京都市 神戸市
実施事務	広域的な行政課題に関する事務のうち、府県よりも 広域の行政体が担うべき事務
	広域防災 <u>広域観光・文化振興</u> 広域産業振興 広域医療 広域環境保全 資格試験・免許等 広域職員研修



なぜ、広域組織として 観光行政に取り組むのか？

観光客が 訪問する 府県数	韓国	中国	タイ	豪州	アメリカ	フランス
	2.25府県	4.03府県	3.04府県	3.01府県	3.10府県	3.77府県

2010日本政府観光局(JNTO)訪日外客訪問地調査から集計

外国人観光客は
広域的に移動する



広域組織として誘客活動に
取り組めば、効率的かつ効果的

～広域組織だからできた観光交流～



2011年6月、関西広域連合と江蘇省浙江省上海市
観光連盟との間で観光交流協定を締結



中国国家旅遊局と
「観光産業交流フォーラム」を開催



広域観光・文化振興局の取組について

- 関西観光・文化振興計画に沿った施策の展開
⇒ 将来目標と5つの戦略
- 最近の取組状況と今後の展開
⇒ KANSAIブランドの構築
 - ・ 通訳案内士関係事務について
 - ・ 広域観光ルートの紹介について

広域観光・文化振興局の取組

■「関西観光・文化振興計画」に沿った施策の展開

平成 24 年 3 月に、関西から日本の元気を取り戻し、観光から日本の元気を取り戻すという高い目標を掲げて「関西観光・文化振興計画」を策定。この計画は、概ね 10 年間を見据え、当面の事業推進計画は平成 24 年度からの 3 年間とし、関西広域連合として府県や住民など幅広い主体のまとめ役を担いながら、関西が一体となって戦略的に取り組む方向を示しています。

計画に掲げた将来目標等

- ・日本の現状 来日外国人客数は世界第 30 位。魅力の発信と活用が不十分
- ・将来目標 関西の将来像を「アジアの文化観光首都」にする
- ・数値目標 関西への訪問外国人客数について、年間約 1,000 万人を目指す

○目標達成のための 5 つの戦略

計画では、これらの目標達成に向けて次の 5 つの戦略を掲げています。

- (1) 「KANSAI」を世界に売り込む
広域観光ルートの提案や「KANSAI 国際観光 YEAR」の展開 など
- (2) 新しいインバウンド市場への対応
ニューツーリズムの魅力強化、MICE の取組強化 など
- (3) マーケティング手法による誘客
ビジネスネットワーク構築、KANSAI WEB 戦略 など
- (4) 文化振興等との連携
文化芸術活動等の交流と関西文化の魅力発信、関西文化に親しむ機会の拡充 など
- (5) 安心して楽しめるインフラ整備の充実
国際空港の魅力向上、おもてなし・利便性の向上 など

■最近の取組状況

OKANSAIブランドの構築

世界の観光マーケットにおいては、関西(KANSAI)の知名度はまだまだ低い現状にあります。外国人観光客誘客に向けて、将来的にはブランドとしての優位性を確保する必要があります。このため、個々のイメージではなく、関西を一つのブランドとして積極的に海外に向けて発信する取り組みを展開します。

(1)「KANSAI国際観光YEAR2013」

2013年を「KANSAI国際観光YEAR」と位置づけ、世界に誇る「関西の食文化」をテーマに関西が一体となって実行委員会を設立し、強力なPR活動を行うこととしました。平成24年12月に関西国際空港でスタートアップイベントを実施し、以後、公共交通機関の協力を得たPR活動を展開、平成25年のゴールデンウィークには「'13食博覧会・大阪」に出展し、関西各地の食を幅広く提供し、関西の食文化をアピールしました。また、併せて関西の経済界等が領事館フォーラムやプレスツアーを実施し、世界へもアピールしました。



キックオフイベント（平成24年12月27日）



食博における連合ブース
(平成25年4月26日～5月6日)

(2)海外プロモーションの実施

「関西」をさらに魅力ある観光圏としてアピールするため、関係団体との連携のもと広域連合長等によるトップセールスをこれまで6回に渡り実施し、歴史や文化、自然景観など関西の持つ多様な魅力を紹介し、KANSAIブランドを発信しています。

・東南アジアプロモーション

経済伸長や訪日観光ビザの拡充等により、東南アジア地域の観光市場としての期待が急速に高まっていることから、平成25年2月17日(日)から20日(水)にかけ関西経済界とともにシンガポール及びマレーシアにおいて、関西観光の魅力を積極的にアピールしました。



マレーシア観光副大臣を表敬訪問

・香港等プロモーション

平成 25 年 9 月 13 日 (金) から 16 日 (月) にかけて、関西経済界等との連携のもと井戸連合長を団長に総勢 50 名の訪問団が、香港及び広州市においてプロモーションを展開しました。

中国本土へのゲートウェイであり、東南アジアにも大きな影響を持つ香港においては、現地大型商業施設で関西観光展・物産展を開催し、関西への観光誘客と特産物の販売を促進するとともに、現地メディアを対象とした交流レセプションや香港政府等と情報交換会を開催しました。また、中国 3 大都市の一つ広州市において、広東省政府への要人訪問や現地旅行社等を対象とした交流レセプションを実施しました。



香港での観光展・物産展オープニングセレモニー



広州市での交流レセプション

(プロモーション実績)

年度	訪問先	日程	参加者	行催事
23	中国(北京市、上海市)	7月20日～23日	連合長、山田委員、嘉田知事、平井知事、森関経連会長ほか総勢57名	20日:表敬訪問、フォーラム等(北京市) 21日:表敬訪問(北京市) 22日:表敬訪問、観光セミナー等(上海市)
23	韓国(ソウル市)	9月18日～20日	山田委員、平井知事、森関経連会長ほか総勢20名	19日:表敬訪問、観光セミナー(ソウル市) 20日:表敬訪問(ソウル市)
24	韓国(ソウル市)	8月1日	山田委員、秋山連合協議会会長ほか	1日:表敬訪問、観光セミナー(ソウル市)
24	中国(北京市、杭州市、上海市)	9月11日～13日	連合長、山田委員、嘉田知事、森関経連会長ほか総勢50名	11日:観光セミナー(北京市) 12日:レセプション(杭州市) 13日:観光セミナー等(上海市)
24	シンガポール、マレーシア	25年2月17日～19日	山田委員、秋山連合協議会会長ほか	17日:レセプション(シンガポール) 18日:意見交換会、旅行社訪問(シンガポール) 19日:表敬訪問、旅行社訪問(マレーシア)
25	中国(香港、広州市)	9月13日～16日	連合長、山田委員、嘉田知事、森関経連会長ほか総勢50名	14日:関西観光展、物産展オープニングイベント、レセプション等(香港) 15日:情報交換会、視察等(香港、広州市) 16日:表敬訪問(広州市)

(3) 名誉観光大使「KANSAI 観光大使」の任命

関西と海外との架け橋として活動され、関西へのインバウンドに尽力いただいている方々を、さらなる活躍を期待して「KANSAI 観光大使」に任命し、海外におけるネットワークの強化を図っています。韓国 の 3 名、中国本土の 4 名の方々に加え、平成 25 年の香港プロモーションで 4 組 5 名の方々を新たに任命し、「KANSAI 国際観光 YEAR」の情報など関西の情報発信を行っていただくこととしています。

韓国 李 容淑（旅行会社社長）
キム・ギョンウ（ブロガー）
ムン・チョルジン（ブロガー）

中国 鄭 保壘（前中国国家観光局大阪事務所長）
崔 万哲（KPO 北京事務所長）
周 華殊（旅行会社社長）
谷口弘記（観光物産コンサル会社代表）



香港での任命式（平成 25 年 9 月 1 4 日）

香港 袁 文英（旅行会社社長）
陳 俊偉（ライター）
R I E（TVタレント）
MukoAngie（お笑いコンビ）

(4) 山陰海岸ジオパーク活動の推進

これまでもプロモーションにおいて多様な関西の観光資源を紹介する中で、広域観光連携のモデル的な取り組みである山陰海岸ジオパークに関するトップセールスを実施しています。

今年は、特に山陰海岸国立公園の指定50周年を記念して、山陰海岸の優れた自然景観やその魅力を広くアピールし次の世代に継承するため、3府県・環境省ほか関係機関が連携・協調して、記念フェスティバルや3府県子どもジオパークサミットなど様々なイベントを実施しました。



50周年記念フェスティバル
（平成 25 年 8 月 2 4 日）



3府県子どもジオパークサミット
（平成 25 年 9 月 7 日）

○文化振興の取り組み

(1) 関西「文化の道」事業／人形浄瑠璃のパンフレット制作

関西で発祥し全国に広がった関西共通の文化である「人形浄瑠璃」について、関西の府県域を越えた魅力あふれる文化資源の掘り起こしを行うとともに、観光客誘致を促すPR活動にも活用するため、文化庁補助金を活用して日本語、外国語（英語、中国語（簡体字、繁体字）韓国語）のパンフレットを制作し、国内外に発信しています。

(2) 「関西文化の日」の取り組み

2府8県の文化施設等の協力を得て、11月17日(土)、18日(日)を中心に常設展等を無料とする「関西文化の日」について、10回目となる今回から関西広域連合と関西元気文化圏推進協議会の共催となり、過去最高の491施設の参加のもと、約38万人の方々に関西が誇る長い歴史に培われた豊かな文化資源に気軽に接する機会を提供しました。



(3) 「関西元気文化圏推進フォーラム」の開催

伝統芸術と新しい文化芸術が共存している関西において、固定観念にとらわれない、新しい視点からの文化芸術の見方について考えようと、「文化芸術の再発見」をテーマに、関西元気文化圏推進協議会との共催で、6月22日(土)、大津市伝統芸能会館において、第1回目となるフォーラムを開催しました。

(4) 「関西広域連合文化振興指針」の策定

文化振興の取組を強化し、関西文化の魅力を外に発信するため、有識者会議を3回開催し、その御意見や各構成府県市等の御意見を踏まえ、「文化首都・関西」の実現と併せ、観光の標榜する「アジアの文化観光首都」としての発展を目指すという理念のもと、関西における豊かな文化創造を育む基盤づくりが最も必要であるとの視点に立ち、文化振興指針を策定しました。

○その他の取り組み（基盤整備の推進）

・人材の育成（通訳案内士）

各府県ごとに行っていた通訳案内士(全国)の登録事務を、平成24年4月1日から広域連合で一元的に管理し事務の効率化を図りました。これにより、住所地にかかわらず圏域内府県庁での登録手続きが可能になったほか、通訳案内士情報のホームページへの掲載が広域・一元化し、広域観光に対応できる人材ニーズとのマッチングや、関西を訪れる外国人観光旅客の利便性向上への寄与が期待されます。今後、関西の自然や歴史、文化に通じた人材の育成を図っていきます。

・関西全域を対象とする観光統計調査

関西としての効果的な誘客の取り組みを進めるため、観光庁の「訪日外国人の消費動向年次報告書」データを二次利用し、構成府県内を訪れた外国人旅行客の消費動向などの傾向を整理・分析しました。引き続きデータを蓄積しニーズの把握に努めつつ、観光満足度や再訪意向への影響度を踏まえた情報発信の方法等、さらなる誘客促進につながる方策について検討していきます。

■今後の主な展開

○ KANSAI 国際観光YEAR（2014）

経済界等と連携しながら、世界でも評価が高い日本のマンガ・アニメ等について関西発のブランドを発信するとともに食文化発信事業を継続し、「KANSAI」ブランドの世界における認知度向上に努める。

官民が連携して関西ブランドを発信

・食文化発信事業の展開

関連イベントの情報発信やトッププロモーション実施時に魅力をPR

・アニメ・マンガ等の発信

関西国際空港等の関西の交通の要所等で開催されるイベントを活用して国内外のコスプレイヤーの交流ステージ等をキックオフイベントとして開催するとともに、コアイベントとして域内におけるマンガ・アニメ関係イベントと連携して関西広域連合ブースを出展する。また、年間を通じてWEBにより関西各地のアニメ・マンガ等の関連イベントや情報を発信する。

○ 海外プロモーションの実施

構成府県市や関係団体との連携のもと、広域連合長等によるトップセールスなどの海外観光プロモーションを戦略的に実施。KANSAI 国際観光YEAR2014のPRをはじめ、関西の持つ多様な魅力を面的に紹介し、KANSAIブランドを発信する。

**中国・東南アジアにおいて
多面的に戦略を展開**

・広域連合長、委員等によるトップセールス

・現地でのセミナー等の開催

○ 魅力ある関西観光の発信

現行の「食文化ホームページ」と「広域観光ルートホームページ」を統合するとともに、新たにKANSAI観光大使による情報発信や、SNS機能を追加し、使いやすく魅力あるホームページにリニューアルする。また、関西の世界文化遺産等の情報発信について、広域観光ルートの充実や「関西文化.com」との相互リンクなど、文化振興分野と連携を図る。

・「食文化ホームページ」と「広域観光ルートホームページ」の統合、デザイン改良

・広域観光ルートの追加設定とデータの追加

・「KANSAI観光大使」情報発信ページの追加

・独自フェイスブックの立ち上げ

・「関西文化.com」との相互リンク

**多様な魅力を世界に
発信できるWEBの構築**

通訳案内士関係事務

関西へ効果的に外国人を誘客する取組として、関西での滞在を安心して楽しんでもらえるよう基盤整備の推進に努めています。

その一環として、従来、府県ごとに行っていた通訳案内士(全国)の登録事務について、平成24年4月から、関西広域連合にて一元的に管理することとしました。圏域内にお住まいの方は、住所地にかかわらず、登録申請及び変更、再交付の届け出をすることが可能になりました。

< 通訳案内士登録申請等受付場所及び時間 >

府県名	受付場所	受付時間
滋賀県	本庁商工観光労働部観光交流局 (電話 077-528-3741)	8:30~17:15
京都府	本庁商工労働観光部観光課 (電話 075-414-4878)	8:30~17:15
大阪府	咲州庁舎府民文化部都市魅力創造局 都市魅力・観光課 (電話 06-6210-9313)	9:00~18:00
兵庫県	本庁産業労働部国際局 観光交流課 (電話 078-362-3340)	9:00~17:30
和歌山県	本庁商工観光労働部観光局 観光交流課 (電話 073-441-2785)	9:00~17:45
鳥取県	本庁文化観光局 国際観光推進課 (電話 0857-26-7310)	8:30~17:15
徳島県	本庁商工労働部観光国際局 国際戦略課 (電話 088-621-2337)	8:30~17:15

住所や氏名などの登録事項の変更、紛失や汚損による再交付の申請に当たって必要な書類は、すべてホームページに掲載していますので、ご確認ください。

また、希望される方については、通訳案内士情報も掲載しています。

→ <http://kouiki-kansai.jp/contents.php?id=639>

広域観光ルートを紹介

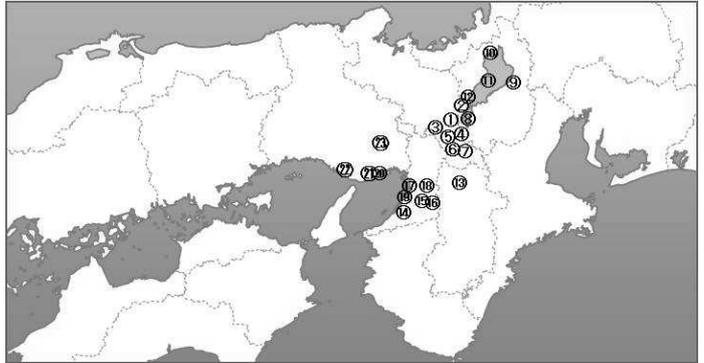
関西広域連合では、関西をひとつのマーケットとして捉え、多種多様なテーマによる広域観光ルートを提案しています。

各地点の詳細は、ホームページ (http://kouiki-kansai.jp/j_culture/) に掲載しています。

1. 「初めてのKANSAI満喫」

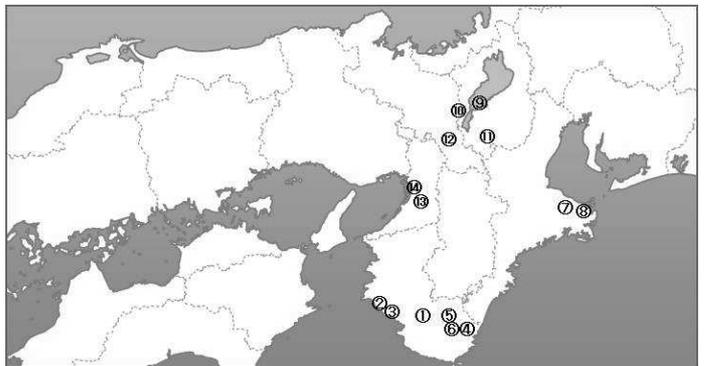
(時空を超えた古人の道を通る)

悠久の歴史において日本の都が存在してきた KANSAI は、日本の政治、経済、文化の中心地で有り続け、その文化も東アジアとの交流の中で、独自の発展を遂げてきた。その歴史・文化・自然の宝庫 KANSAI を、時空を超えて旅をする。



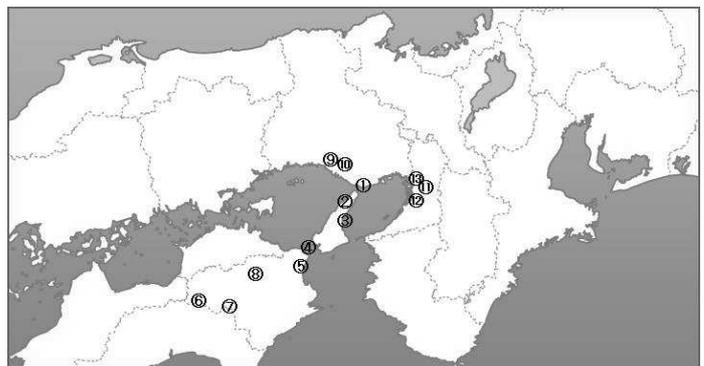
2. 「日本人の心の聖地を通る」

関西の南に位置する紀伊半島は、海岸線や原生林など自然豊かで古から神々が鎮座する場所だと信じられてきた霊験なところとして、古から多くの人々が訪れてきた聖地である。現在も残るこのパワースポットを通りながら、古の旅人として、時空を超えた日本人の心の聖地・ふるさとを旅する。



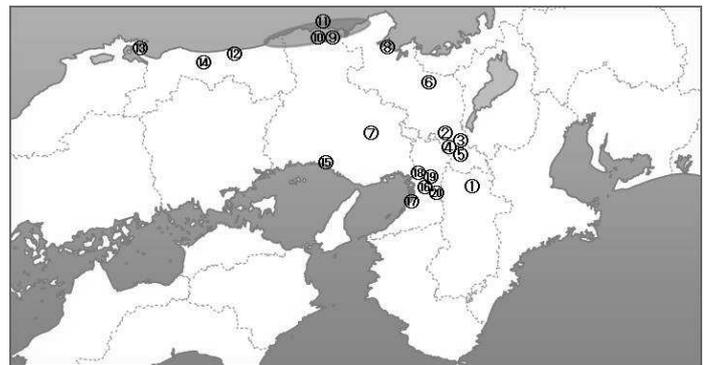
3. 「伝説の瀬戸内海と秘境景観を通る」

古より西日本の交通の大動脈であった「瀬戸内海」は、風光明媚な景観で知られ、中世文学にも登場してきた日本の原風景が残されている。瀬戸内海をまたぐ世界有数の長大橋を渡り、沿海と山間の絶景を巡る旅をする。



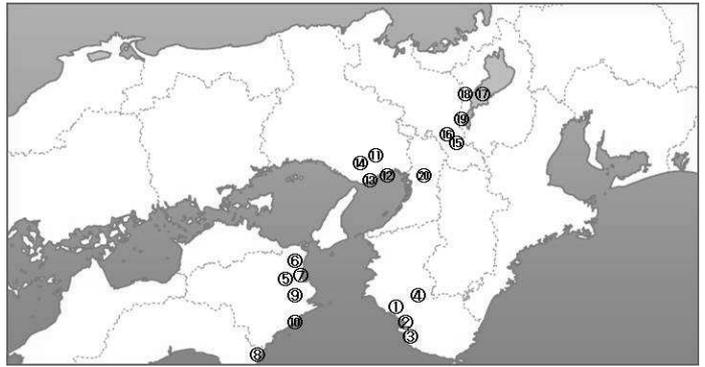
4. 「KANSAIの遺産を通る」

日本の中心地として発展をとげてきた KANSAI は、悠久の歴史において大陸との交流があり、多くの文化がもたらされてきた。それらは日本独自の発展をとげ、今日でも世界文化遺産をはじめ数多くの有形・無形の遺産が存在する。また、美しい地質遺産であるジオパークなど、多彩な自然を背景とした人々の文化・歴史がある。これらの遺産を巡る旅をする。



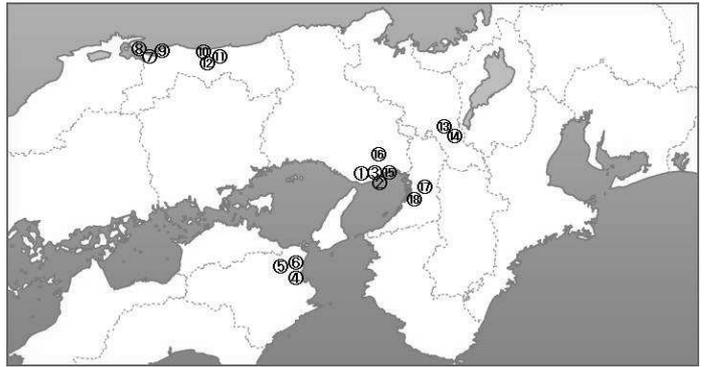
5. 「KANSAIで癒しと健康」

日本には古から続く温泉地が 3000 箇所を超えるといわれ、古から人々は、温泉を神聖なものとして崇め、疲労回復、保養、療養など湯治の目的で利用してきた。温泉地には、温泉だけでなく、自然環境、食事などによる効果もあり、日本の温泉は、特に露天風呂など、大自然と一体となった温泉が特徴といえる。これら四季折々の美しい自然の景観、郷土料理など、心身の癒しと健康を体感する旅をする。



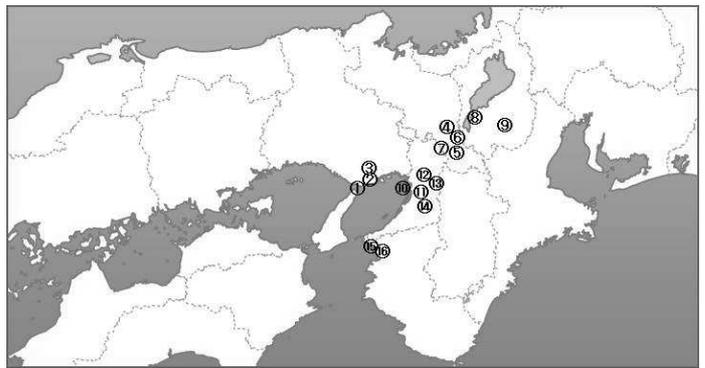
6. 「COOL KANSAI 体感」

日本が世界に誇るマンガやアニメの原点が KANSAI にはある。現代のマンガ、アニメ作家の記念館やマンガのミュージアムなど、伝統文化とポップカルチャーが共存共栄して進化している。時代時代によって新しいものを生み出してきたのが KANSAI の特徴。また同様に、伝統と最先端が融合してきたのが「KANSAI のものづくり」である。これら各地に存在するものづくり、コンテンツや、B級グルメなどの食文化も含め、クールな KANSAI を迎える旅をする。



7. 「エンターテインメント KANSAI」

悠久の歴史において日本の政治・経済・文化の中心であった KANSAI は、無形世界文化遺産にも登録された古典芸能をはじめ、祭など様々な文化遺産を生みだし、それらは現在でも各地に伝承されている。また近代には、お笑い文化など、多様なエンターテインメントが生まれ育ったところである。これら各種芸能や各地にあるエンターテインメント施設などを巡り、日本のエンターテインメントの原点を体感する旅をする。



8-1. 「KANSAIの自然を巡る 1」

8-2. 「KANSAIの自然を巡る 2」

古から人々は多様な気候風土を有する日本特有の自然と共生し、日本ならではの自然との共生文化が発展してきたといえる。人々の生活も自然とともにあり、四季折々の里山などの風景は日本の原風景といえる。これらの自然とともに生きてきた知恵、文化も含めた自然環境を巡る旅をする。

